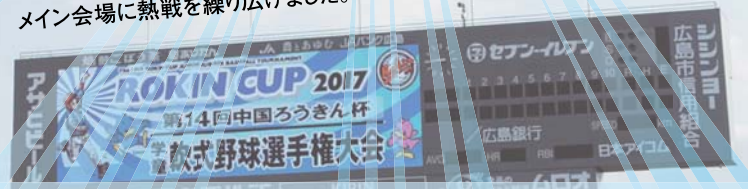


子どもたちの真剣勝負！ 熱戦！決勝大会

第14回 中国ろうきん杯学童軟式野球選手権大会

2017年11月11日(土)・12日(日)の2日間、第14回 中国ろうきん杯学童軟式野球選手権大会「決勝大会」を開催しました。両日とも晴天に恵まれ、中国5県の621チームの中から予選を勝ち抜いた8チームが、「マツダZoom-Zoomスタジアム広島」をメイン会場に熱戦を繰り広げました。



中国ろうきん杯学童軟式野球選手権大会とは？

「毎日ひたむきにがんばる子どもたちの夢を応援したい」という思いから、2004年より(中国ろうきん)の社会貢献活動の一環として、中国地区軟式野球連盟と(中国ろうきん)の共催で開催し、2017年で第14回目を迎えました。

【参加チーム数・選手数】

	2016年度		2017年度	
	チーム	選手	チーム	選手
鳥取県	83	1,660	114	2,280
島根県	101	2,020	100	2,000
岡山県	120	2,400	123	2,460
広島県	150	3,000	155	3,100
山口県	131	2,620	129	2,580
合計	585	11,700	621	12,420

1日目

失敗を恐れず、最後まであきらめない！ 大会を通じて少しでも成長してほしい

初日の11日(土)、爽やかな秋晴れの中、「マツダZoom-Zoomスタジアム広島」で決勝大会が幕を開けました。開会式では、本大会を支える方々から励ましの言葉をもらった後、広島県代表の矢野ファイターズ主将が元気に選手宣誓を務めました。憧れのプロ野球選手たちがプレーする「マツダZoom-Zoomスタジアム広島」をメイン会場とし、初日は準々決勝の全4試合を実施。この球場でプレーすることを目標に頑張ってきた選手たちは、日頃の練習の成果を存分に発揮し、毎試合、白熱した試合展開となりました。



▲(中国ろうきん)岡本副理事より開会のあいさつ。

▲各チームの主将が旗を掲げ並ぶ中、力強い選手宣誓で大会がスタート。



憧れの球場で試合ができる喜びに気合十分の選手たち。全力プレーで、球場を駆け回る。

2日目

熱戦続く準決勝・さらに手に汗握る決勝戦

2日目の12日(日)は準決勝と決勝の3試合が行われました。数々の試合を勝ち抜いてきた4チームの準決勝は白熱。旗岡スポーツ少年団と郷田ウイズの試合は延長戦になり、タイブレーク方式で1イニング行い、旗岡スポーツ少年団が4点先取、その後、郷田ウイズも1点返しましたが、反撃及ばず、旗岡スポーツ少年団が決勝へ。

決勝戦は、上記の旗岡スポーツ少年団と東広島ジュニアが対戦。両者譲らず迎えた最終回、表の攻撃で旗岡スポーツ少年団が一挙に6点をあげ、大量リードを奪いました。その裏の攻撃で東広島ジュニアも実力を発揮し追いますが、反撃及ばず試合終了。最後の一球まで、全力でプレーする選手の姿に場内が沸きました。

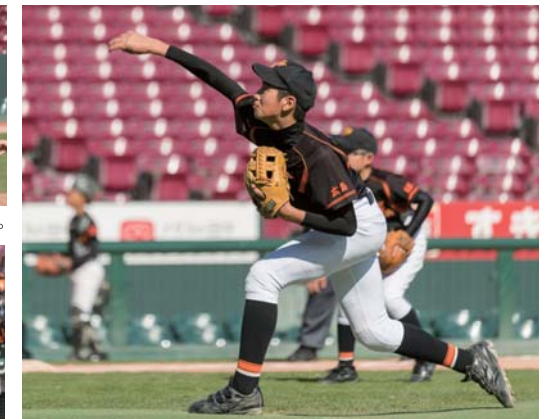
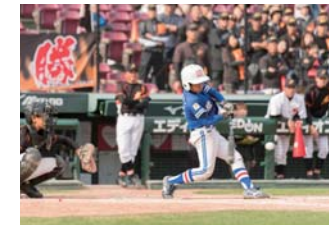


頑張れー!!
かっとはせー!!

グラウンドで頑張る子どもたちを親もスタンドから声で後押し。



一生懸命だからこそ、悔しさが込みあげます。



今決勝大会は、打撃戦が目立ちましたが、素晴らしいピッチャーもたくさんいました。投げて、守っての良いリズムが攻撃にもつながっていたようです。

準優勝



東広島ジュニア

前回出場時の雪辱を晴らすために挑んだ今大会。守りからリズムを作り、順調に決勝まで勝ち進んでいましたが、最後惜しくも届かず、準優勝。優勝は来年以降に持ち越しに。



主将が常に笑顔でみんなに声をかけ、チームを盛り上げる姿が印象的だった旗岡スポーツ少年団。試合が苦しい時でも、主将のあきらめない姿が、チームへ広がり、準決勝・決勝へとつながったようでした。決勝では、選手それぞれが力を発揮し、全員野球で、見事優勝を勝ち取りました。

優勝



旗岡スポーツ少年団 主将

決勝大会トーナメント表

